

「皆さん、どうしていますか？」 次回は『生きる』号外を発行します。
ひとことメッセージを募集中。 詳しくは4ページをご覧ください。

こんな時だからこそ
かみしめたい言の葉たち



ウイルスは排除しても
人間を排除しない
という意思が重要です
但馬 弘(真宗大谷派宗務総長)

人類にはその邪悪なウイルスに
対抗できる免疫が確かに備わって
いる。邪悪なウイルスとは新型コ
ロナウイルスではない。差別や偏
見というウイルスである。
(中日春秋20・2・2より)

東日本大震災の津波による原発事
故の3・11から九年目に見舞わ
れた危機を、仏法に遇うための
「仏縁」にしていかねば。
戸次公正(真宗大谷派南溟寺)

つらく苦しいことは
不幸なことではなく、
それを通してのみ
見えてくる世界がある
伊藤 元(真宗大谷派徳蓮寺)

発菩提心というのは
つまりこのまま
腐って死にたくない
ということですよ
竹中智秀(元・大谷専修学院長)

空しさ・不安・悲しさ・・・
それらは私を歩ませる
促しであった

挫折が人間を
育てていくのだ

人生
思い通りにならないことばかり
そのことが私に
大切なことを
気づかせてくれる

俱會一處

新型コロナウイルスによ
る感染拡大を受けて、お寺
のすべての行事を中止して
います。
行事再開の際は改めてご
案内をいたします。ぜひご
参加ください。
皆さまと直接交流できる
時が来ることを、心待ちに
しております。

存明寺

いま、思い出す

— 新型コロナウイルスの 感染拡大の中で —



▼今日は5月3日(日)。本来であれば、名古屋の荒山淳先生をお招きして存明寺永代経法要が行われる日でした。それが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となりました。外は初夏。新緑と晴天の日です。まさかこんなことになるうとは・・・。まさに私たちは誰もが皆、「思い通りにはならない現実」を生きているようです。

▼いまや世界中に不安や恐れ、辛さや空しさが広がっています。一体何が私に問われているのでしょうか。何を大切にして生きていくべきなのでしょう。そのことがただひたすら私に問われていることを痛感しています。

▼今だからこそ確かめておきたいことがあります。それは、たとえこのような状況であっても、仏教の灯(ともしび)は、けっして消えたりはしないということです。長い人類の歴史の中で人々は不安や恐れ、辛さや悲しみを感じながら生きてきました。そして、そのような人間を見捨てずに、仏さまの教えは伝わってきたのです。その歴史はお釈迦さまから2500年、親鸞さまからは800年。ひとときも途絶えることなく、教えは連綿と伝わってきたのです。新型コロナウイルスが、このような長い歴史を消し去ることはできないのです。苦悩の人々がいて、その人々を照らす教えが確かにあるのですから。このような時だからこそ、人間を照らす教えにこの

私が出遇う歩みを、大事にしたいものです。

▼ところで住職の近況ですが、2月末からとりあえず6月末ごろまで、法話や研修会や会議などの予定がすべて中止となりました。お寺のご法事もほとんどがキャンセルとなり、ながい空白の日々を過ごしています。突然の通夜・葬儀はお勤めをしていますが、葬儀も食事は自粛、一日葬やごく少数の短縮葬儀と、その形態は大きく変わってきています。

▼一日の過ごし方ですが、朝6時には起床、まず入念に手を洗い、体温をチェックし、コーヒードリンク。お朝事(朝の読経)をいつもより丁寧にお勤めし、真宗聖典を一日3ページ朗読、筋トレとストレッチをして、新聞に目を通す、これが朝のルーティン(生活習慣)となっています。午前中は、臨時従業員となった長男と共に、お寺の中の清掃。今までなかなか手を付けられなかった場所の掃除や断捨離に精を出しています。午後には、事務作業や、読書などの真宗



の学びの時間(↑実はこれが一番はかどらない・・・)。ちなみに本堂の仏華は、いっお寺の活動が再開されてもいいように、常に生花を立て替えています。誰にも見られることがないのが、不憫です。

▼こんな時だからこそ響いてくる言葉との出遇いもありました。1ページに掲示した言葉もそうです。3つ目の言葉は大阪の先輩僧侶である戸次公正さんの言葉。

この危機を、仏法に遇うための「仏縁」にしていかなば。

本当にその通りです。この状況を、自分の人生を狂わせた原因として嘆き、恨むことも理解はできませんが、困難はあるけれども、このことが縁となってさらに新しい世界に出会うことができました、それが「仏縁」とするということの深い

内容ではないでしょうか。厳しいところですが、とても大切なことではないかと思えます。

▼トイレットペーパーがなくなるという騒ぎについて、『同朋新聞』5月号にこんな言葉がありました。無くなったのはトイレットペーパーではなく他者性です。

(奥田知志・牧師)

あの時、多くの人が買い占めに走りました。無くなつては大変だという危機感と、自分さえよければという思いに支配されて・・・それは、他者や隣人を見失ってしまったことではないのか、というご指摘です。痛いところを突かれました。奥田さんは次のようにも言われます。

新型コロナウイルスは、いずれ解決しますが、他者との関係性を失うという病の方こそ、私たちは問わなければならぬと思ふのです。(奥田知志)

もともとあつた私たち人間の持つ闇のような課題が、コロナ禍を縁にして、はつきりと表れたということなのでしよう。コロナから私

の生き方や在り方が問われているという視点を大切にしたいものです。

▼ふたたび先輩僧侶の戸次公正さんの言葉です。

バイキンマンは「ばい菌」です。それは敵ですが、実はアンパンマンだってイースト菌という菌がないと作れないのです。世の中からばい菌がいなくなればいいのか？というところ、そうはいかない。ばい菌がいなくなると人間も生きていけなくなる。人間は常にばい菌やウイルスとたたかひながら、それで免疫ができて共に生きていける。

(戸次公正『法蔵魂』5月号)

▼どこかで新型コロナウイルスの菌さえいなくなれば、元の日常に戻ることができると考えていた私は、この言葉に触れてドキッとしました。が、この言葉に確かなものがあることも感じました。

▼浄土真宗はそのような世界を大切に表現してきました。人間が抱く、苦しみや悲しみ・辛さや空しさなどを消し去って人間は救わ

れるのか。いいえ、そうではありません。人間である以上、すでに誰一人のがれることなく身に備えている煩惱。それを消すのではなく、活かすのだと。煩惱の身がそのまま必ず涅槃に生まれる身となる。それが親鸞さまが出遇われた浄土真宗の広い世界でした。

▼コロナウイルスをやっつけて人間が勝利するというのではなく、コロナウイルスという現実の中を生きながら、もちろん感染を予防しつつも、コロナウイルスのこの現実を我が世の現実として引き受けて生きる、この危機を活かす道を探る、そんな生き方を浄土真宗は私に呼び掛け、願っているのではないのでしょうか。

▼この騒ぎの中で親鸞さまの『教行信証』の中に次のような言葉があることを発見しました。今までも何度となく読んでいたのですが、通り過ぎていた言葉でした。

真理の一言は
悪業を転じて 善業と成す

(親鸞 教行信証 199 頁)

▼真実の言葉、つまり仏さまの教

えは、都合の悪い出来事(悪業)を、多くの人々にとつての道しるべ(善業)に変えていくと言われているのです。都合の悪い出来事が、仏さまの教えに照らされれば、道しるべのように光り輝くものへと変化していくのです。親鸞さまのそんな言葉を手掛かりに、この現実の中を、道を求めて歩んでいきたいと思ひます。

▼まだ見ぬ未来の人々へ。2020年、新型コロナウイルスという病いが人類を襲いました。人類は未曾有の困難を抱えましたが、人々は、その時代をあきらめず、自分を見失わず、懸命に生き抜きました。未来の人々へ、そんな報告ができるような生き方をしたいものです。

(了)



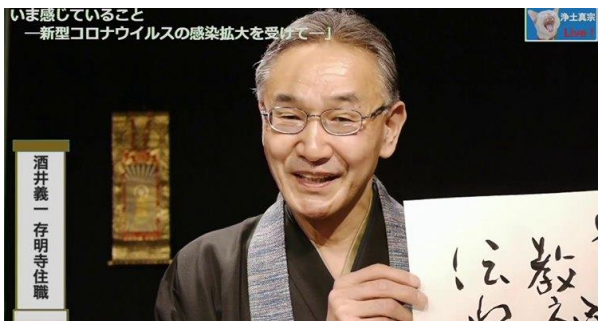
お寺のひろば 2020年(令和2年)

お寺のひろば 2020

左記の行事は、新型コロナウイルスの影響により中止しております。再開の折には改めてご案内いたします。

5月16日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
6月13日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
6月27日(土)	14時	グリーンフケア
7月4日(土)	11時	新盆法要 にいぼん
7月12日(日)	11時と13時	お盆 ぼん
8月29日(土)	午後	青年のつどい じゅしん
9月12日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
9月18日(金)	10時	清掃の日 ひがん
9月22日(火)	11時と13時	秋彼岸 ひがん
9月26日(土)	14時	グリーンフケア
10月10日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
10月24日(土)	10時	おみがき ほうおんこう
11月2日(月)	14時	報恩講の夕べ ほうおんこう
11月3日(火)	12時	報恩講法要 ほうおんこう
11月14日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
11月28日(土)	11時	掃敬式 ききようしき
12月12日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
12月19日(土)	14時	グリーンフケア しゅしん
1月1日(元旦)	10時	修正会 しゅしん

講師：田中顕昭師(長崎県)



【あしがき】

▼新型コロナウイルスの感染拡大の為、あちこちの浄土真宗の法話会・行事等が中止になる中、東京教区の若手僧侶が立ち上がり、実施した企画「浄土真宗・法話生配信」(写真右上)。「いまだからこそ伝えたいのです」との熱い思いの企画でした。

▼「酒井さんもお話ししてください」と声をかけていただきました。ここで断っては男がすたる?と、身の未熟さを顧みずにお引き受けしてしまいました。そして実施した3月21日。その時の様子がネットでご覧いただけます。存明寺のホームページ、またはYouTubeで検索してみてください。そこにはカメラ目線で何かをしゃべっているおつちゃん(住職)が出てきますので。

▼3人の子供と妻と私。一家5人でステイホーム中です。みんなそろって食事、皿洗いは各自、たまに作業を共にする・・・。会話が增え、きずなが深まった面もありますが、あまりにも長いので、ち

皆さん、どうしていますか？

ひとことメッセージ募集中

今回は『生きる』号外・原稿募集直接会うことができないのならば、せめて近況報告や今の思いを届けあいましょう。ほんの一言でも結構です。氏名・年齢・肩書を明記。ぜひお寄せください。近日発行予定。

よつとしたことで、すれ違いもあつたり。そんな自粛生活中です。

▼皆様におかれましても大変な毎日をお過ごしのことと拝察いたします。この危機的状況を乗り越えて、再び必ず、まさに密*に出会う時を共にしたい、と願っています。どうぞご自愛ください。(住職・釋諦信)

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp